<table>
<tr><td colspan="2">会　議　名</td><td>第２回記念式典検討部会</td></tr>
<tr><td colspan="2">日　　時</td><td>平成２３年１１月３０日（水）　９：３０～１０：３０</td></tr>
<tr><td colspan="2">場　　所</td><td>田川市役所　4 階　第 2 委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="9">出席
委員</td><td>記念式典討部会
（9/9 人）</td><td>１　出席委員
名和田　　新（代理：　　）部会長
高瀬　春美　（代理：　　）副部会長
森山　沾一　（代理：　　）
松岡　博文　（代理：　　）
佐渡　文夫　（代理：鶴我　正司）
藤春　秀徳　（代理：　　）
大宅　俊一　（代理：　　）
久永　　明　（代理：　　）
高尾　美津子（代理：　　）
２　欠席委員　　なし</td></tr>
<tr><td>田川市</td><td>伊藤市長</td></tr>
<tr><td>総務部</td><td>犬丸総務部長</td></tr>
<tr><td>教育部</td><td>万田教育部長</td></tr>
<tr><td>総務課</td><td>日野課長、峯課長補佐、児島係長、嶋田主事（４名）</td></tr>
<tr><td>総合政策課</td><td>大峯課長、小川室長、綿施室長補佐、古木主任、今城主事（５名）</td></tr>
<tr><td>学校教育</td><td>籔亀小学校校長会代表、猪上中学校校長会会長（２名）</td></tr>
<tr><td>コ ン サ ル</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">内　　容</td><td>報告事項
第１回記念式典検討部会における指摘事項について
協議事項
⑴　世界記憶遺産登録記念式典の開催計画について
⑵　協賛について
⑶　記念式典の開催内容について</td></tr>
</table>

概　要

１　開会

２　報告事項

事務局から一括説明

（委　員）　式典の国外への発信方法についてはどのように捉えたらよいのか。

（事務局）　式典自体の情報発信については、インターネット等を通じた配信を考えているが、国外への情報発信は、式典を契機に世界遺産を国外へ発信して

いくという考え方である。
（委　員）　その旨、趣旨文にわかりやすく記載をお願いしたい。

3　協議事項について
⑴　世界記憶遺産登録記念式典の開催計画について
事務局から一括説明
意見特になし
（委　員）　開催方針の部分については、案として本会に提出しているものであるので、今後検討、修正を行い、次回で最終決定とさせていただきたい。

⑵　協賛について
事務局から一括説明
（委　員）　文化庁の補助事業は具体性のある話であるのか。
（事務局）　今から研究を進めていく段階の話である。
（委　員）　式典のみならず、全体的に国の補助について検討していただきたい。
（委　員）　この件については、近々に世界記憶遺産推進室が上京する予定であるので、式典も含めた所で文化庁に相談してはどうかということで、事務局に話をしている。

⑶　記念式典の開催内容について
事務局から一括説明
【資料１】について提案委員から説明
（委　員）　アトラクションについては、第２部の始めに位置づけられているため、非常にやり易いと思われる。炭坑節の総踊りを是非入れていただきたいが、踊りだけではなく、芝居から総踊りへつながる形で、田川の様子が表れるものにしたいと考えている。また、踊りは舞台及び会場の左右、後方からも入場し、会場全体を使ったものを考えている。なお、レイアウトの部分では、作兵衛氏への祝福と感謝の懸垂幕を設置してはどうかと考えている。
（委　員）　式次第についてはもう少し強弱をつけたものにすべきではないか。
アトラクション後に基調講演という運びになっているが、基調講演前に来場者が退席してしまうという事態も考えられるため、アトラクションで式典の最後を盛り上げるという形が良いのではないか。
また、国内外への発信を考えるのであれば、まずはセレモニー部分をコンパクトにする必要がある。また、子どもたちへ作兵衛氏のマスコットキャラクターの図案を募集し、情報発信の核となるものを作成すればより発信がしやすくなると思われる。さらに、文化大使や観光大使、著名人等、影響力のある方に出席いただくことで、全国的な情報発信や集客が見込めるのではないか。
（委　員）　基調講演の位置については、世界記憶遺産に登録されたことを知らしめるためにも前段に据えてはどうかと考える。また、前座も長い印象がある。
（委　員）　２部構成については良いと思われる。アトラクションと基調講演の位置については、第１部のセレモニーを厳粛に行った上で、第２部のオープニングに据えて盛り上げる方が良いと思われる。
基調講演の講師については、炭鉱文化に直接的な関わりはないが、文

化や自然をテーマとして作品を作られている宮崎駿氏（スタジオジブリ）に依頼してはどうか。日本初の世界記憶遺産ということで、文化庁等関係機関を通して同氏へお願いできれば、式典も華やかになり、全国からの来場が見込めるのではないか。

（委　員）　式典の時期的に神幸祭のシーズンであるので。難しいかも知れないが、アトラクションの中に神輿の登場を盛り込んではどうか。

（委　員）　式典の時間帯はどの程度か。

（事務局）　海外等遠方からの来場者を考慮して、１３時または１３時３０分から開始し、約４時間程度を考えている。

（委　員）　２部構成であることは問題ないが、１部をコンパクトにし、２部を大規模で華やかなものすべきではないか。また、基調講演の位置は講師によって変わってくると思われる。例えば世界記憶遺産の専門家であれば、第１部の式典中または最後が相応しいと思われるし、宮崎氏のような著名人であれば、華やかなアトラクションの後にお話しいただく方が良いと思われる。

（事務局）　式典は概ね長く感じるものであるため、短くまとめないと聴衆に疲労感を与えてしまう。１時間ないし４０分程度にまとめ、全体の行程も３時間以内にすべきである。

（委　員）　日本初の世界記憶遺産登録であることを強調すべきであるので、皇室や宮内庁から祝辞やメッセージを頂いてはどうか。また、併せて国旗の掲揚、国歌の斉唱を盛り込んで、日本を代表しているという共通認識を市民や来場者に持っていただくことが重要ではないか。

（委　員）　他の部会からも記念式典に関わる具体的な意見が出ている。作兵衛氏の記録画の紙質が西洋紙であり、保存が難しいものであること、また、原画を簡単に扱うべきではないということについて、式典の中で専門的な見地から話をしてはどうかという意見を検討委員会から頂いているので、そういったものも盛り込んでいければと考えている。

（委　員）　先に説明しました作兵衛氏への祝福と感謝の懸垂幕については、子どもたちによる張り絵や切り絵等による作品にできればと考えているので、そういったところで学校との連携ができればと考えている。

（委　員）　子どもたちの作文や感謝のことばといったものは良いと思われるが、現時点で世界記憶遺産や作兵衛氏の功績について、子どもたち自身がどの程度自覚しているのかが問題となる。そういったことについて、子どもたちが知らない、浸透していない状態では、言葉による感謝の表現はなかなか難しいと思われる。できれば作兵衛氏の人物のイメージという形であれば子どもたちも素直に表現できるのではないか。

（委　員）　作兵衛氏や私たちが望むことはやはり「継承」であるので、作品等を作る中で子どもたちが学んでいければ良いと考える。

（委　員）　初めはよくわからなくとも、この式典をきっかけに、子どもたちが作兵衛氏や世界記憶遺産について興味を持ち、先生方が学校教育の現場において、郷土愛を育む学習機会を設ける、そういった機会になれば良いのではないか。今後５年１０年先になってそういった教育の効果が表れてくると思われる。

（事務局）　委員が言われるように、子どもたちは作兵衛氏についてはあまり知らないのが現状である。博物館の見学等で絵画については認識しているが、作者については認識していない。田川小学校、中央中学校は今回のコー

ルマイン・フェスティバルに参加するに当たり、作兵衛氏についての説明は行っているが、単発ではなく、作兵衛氏のイメージ的なものを継続して伝えていかないと、なかなか子どもたちには浸透していかない。現在小学校では給食において、ボタ山カレーや作兵衛だんごといった炭鉱文化に関係するメニューを作るなど、取り組みを行っている。

（事務局）　中学校においても、博物館への見学等を教育に取り入れていかなくてはらないと考える。現在中央中学校では駅から博物館へのルートに設置する案内看板の作成を生徒が行っており、生徒達に意識の芽生えが見受けられる。キャラクターの募集等も対応できると思われる。

（委　員）　福岡県立大学においても、作兵衛氏について学習する動きが出てきておりますので、学生の発表の場を設けることを提案したい。

（委　員）　教育機関については、小学校、中学校、高等学校、大学まであるので、コンパクトなセレモニーの中でどのようにメッセージを織り込んでいけるのか、事務局で検討していただきたい。

（委　員）　当日の従事者、関係者が着るようなハッピを作ってはどうか。イメージキャラクターの活用も考えられる。

（委　員）　世界記憶遺産や作兵衛氏についてどのような学習機会を作り、教育へ浸透させていくかといったテーマついては、保存・活用の検討部会に預けるべきではないか。単純に式典と絡めるのではなく、そこでの十分な議論が前提にあって、式典の中でメッセージや学習の発表があるべきではないか。

（委　員）　感謝やメッセージの相手は、作兵衛氏はもちろんであるが、日本の近代化に大きく貢献した炭鉱文化とその労働者にも向けられるべきであると考える。そういった考え方を含めた記念式典にしてはどうか。

（委　員）　先ほど委員から他部会との関連についての発言がありましたが、各部会の情報共有については世界記憶遺産推進室が方策を検討している。

（事務局）　各４部会の会議の中で頂いたご意見について一覧表を作成し、ご意見と各部会との関係性について整理したいと考えている。

（委　員）　記念誌を発行してはどうか。

（事務局）　記念誌については本部会において初めて頂いた意見であるので、先ほど説明した方法で整理をさせていただきたい。

（委　員）　記念誌の発行については非常に賛成である。現在発行されている記念誌の内容は修正すべき点があり、研究の結果新しい事実が出てきているので、そういった事実に基づいたものを作成すべきである。

（委　員）　本日出して頂いた意見について、事務局で整理と検討をお願いしたい。

４　その他

（事務局）　次回の記念式典検討部会については、１２月１１日に行われる検討委員会以降の日程で、１２月下旬で調整させていただきたい。

５　閉会

次回会議	日　時：平成２３年１２月下旬 場　所：未定 内　容：未定